

## 式 辞

桜のつぼみも大きくふくらみ、白木蓮の満開の白い花に迎えられ、本日は、幸手市教育委員会教育部長 杉田和洋 様、そして保護者の皆様のご臨席のもとに 幸手中学校 第七十三回卒業証書授与式を挙行できますことは、ひとえに皆様方のご支援の賜と厚く御礼申し上げます。

三年生の皆さん。卒業おめでとうございませう。今、私は皆さん一人一人に卒業証書をお渡ししました。本校は、昭和二十二年に開校して以来、地域に支えられ、令和の最初の卒業式を迎えました。幸手中学校からはこれまでに一万九千人を超える卒業生が旅立ちました。今日、幸手中学校を巣立っていく皆さんの卒業にあたり、心よりお祝いの言葉を述べさせていただきます。

皆さんは九年前、東日本大震災の時に幼稚園、保育園を卒園され、義務教育のスタートを切りました。その時も地震の余震を心配しながら計画停電の中で行われた入学式だったと思います。その状況乗り越えて九カ年の義務教育を終えることができました。義務教育最後の卒業式も、新型コロナウイルスのパンデミックという状況の中で、できることの最善を尽くして執り行うこととなりました。

高校入試を突破して乗り越えた皆さん。このことは、単なる思い出としてではなく、皆さんの心の中に「どんな悪状況でも必ず乗り越えることができる」という体験は、この先どんな苦難にも立ち向かうことができると確信しています。

保護者の皆様に申し上げます。本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございませう。私ども職員も微力ではありましたが、お子様の健やかな成長を願って誠心誠意、全力を注いで参りました。この三年間、学校にお寄せ頂きました皆様のご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

結びになりましたが、本日は、ご臨席頂きました皆様方には、早朝からともに卒業生の門出を祝って頂き、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。今後とも卒業生並びに本校の生徒達に温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

この歴史と伝統に支えられた幸手中学校で学んだことを誇りに、そして、この地域と地域の方々に感謝し、自覚と責任をもって、立派な社会人になってください。一人一人の皆さんが、「校是 全力は美なり」を心の支えにすばらしい人生を歩むことを祈念して式辞とします。

令和二年三月十三日

幸手市立幸手中学校 校長

高野 治